

2025年度 沖縄県立芸術大学 教職課程の自己点検・評価結果

※自己評価の基準： A：成果がある B：概ね達成している C：取組みが不十分又は未実施

| No. | 大項目 | レベル | 中項目 | 観点 | 実施状況及び評価 | 評価 | 根拠資料 |
|-----|------------|----------------|--|---|--|--|---|
| 1 | ①教育理念・学修目標 | 大学全体 学科等 | 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況 | 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画は具体的かつ明確な形で設定されているか | 教員養成の目標及び目指す教員像を明確に定めている。目標を達成するための計画については、教職課程科目のカリキュラムツリーを整備している。これらは、毎年刊行する「教職課程年報」で公表されている。学生に対しては、新入生全員に「教職課程のしおり」を配付することで周知している。 | A | ・教職課程年報（第六部 教職課程関連資料） ・教職課程のしおり |
| 2 | | 大学全体 学科等 | 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス | 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画は、学生や採用権者の意見、 沖縄県 教育委員会等が策定する教員育成指標との関係性の考慮が行われているか | 沖縄県公立学校教員育成協議会等を通じて、県教育庁や各校長会と養成・採用等に関する意向や方針を共有している。履修・登録アンケート、学生満足度調査、卒業時アンケート等の各種調査や教職実践演習で実施する振り返りにより学生の声を聴取し、教員養成の目標や計画、教職課程の運営に生かしている。 | A | ・沖縄県公立学校教員育成協議会実施要項 ・沖縄県教員育成指標 ・履修・登録アンケート結果 ・学生満足度調査結果 ・卒業時アンケート結果 |
| 3 | | 大学全体 学科等 | 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直しの状況 | 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画について、一人一人の学生が教職課程での学修を通じて得た自らの学びの成果（学修成果）や自己点検・評価の結果、社会情勢や教育環境の変化等を踏まえた適切な見直しが行われているか | 毎年1月から3月にかけて、点検計画に基づいて 各専攻で点検を行い 、教職課程委員会で確認を行っている。また、 自己点検・評価のためのFD研修会を実施する予定 である。 | B | ・教職課程「変更届」点検計画 |
| 4 | | 大学全体 | 複数の教職課程を通じた授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成状況 | 複数の教職課程間における授業科目の共通開設は、開設に責任を負う学科等の強み・特色を生かしつつ適切に行われているか | 同一専攻の中高免許課程での「教科に関する専門的事項」や、複数専攻での「教育の基礎的理解に関する科目等」について、適切に共通開設を行っている。 | A | ・教職課程のしおり |
| 5 | | 大学全体 | 教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況 | ICT環境（オンライン授業含む）、模擬授業用の教室、関連する図書など、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか | 電子黒板や教師用デジタル教科書を導入し、教室にはプロジェクターやWiFi等、ICT環境を備えている。また教職課程を履修する学生のための施設である教職相談室には関連図書や設備を適切に整備している。今後、附属図書館と連携し、教職課程コーナーを設置することを検討している。 | A | ・教職課程年報（第一部 教職課程の報告） |
| 6 | | 学科等 | 教育課程の体系性 | 法令及び教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と対応し必要な授業科目が開設され適切な役割分担が図られているか、教職課程以外の科目との関連性が適切に確保されているか | 必要な授業科目が適切に開設されている。また、各専攻で体系的に開講される関連科目の中から、教員養成の目標に照らしてより適切な科目を教科専門科目として厳選し教員養成カリキュラムを編成している。 | A | ・教職課程のしおり |
| 7 | | 大学全体 | ICTの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性 | 教員として身につけることが必要なICT活用指導力の全体像に対応して各科目間の役割分担が適切に図られているか、到達目標や学修量が適切な水準となっているか | 2022年度の「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」に係る授業科目開設にあたり学内で科目間の整理を行った。教科教育法の授業にもすでにICTの活用に関する内容が組み込まれている。引き続きコアカリキュラム対応表の活用等により各科目間の調整を図り効果的な編成を進める。 | A | ・シラバス ・教員免許法施行規則改正への対応について（ICT事項科目） |
| 8 | | 大学全体 | いわゆるキャップ制の設定状況 | 1単位あたりの学修時間を確保する上で有効に機能しているか | 各学部の履修規程で履修登録の上限を定めている。 授業評価アンケートで授業科目ごとに学修時間が確保されているか確認している 。教育実習予定者の個別面談で、単位の取得状況と成績を確認し、学業不振の場合は指導助言を行っている。 | A | ・沖縄県立芸術大学美術学部履修規程 ・沖縄県立芸術大学音楽学部履修規程 ・授業評価アンケート結果 |
| 9 | | ②授業科目・教育課程の体系性 | 学科等 | 教育課程の充実・見直しの状況 | 学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか | 毎年1月から3月にかけて、点検計画に基づいて 各専攻で点検を行い 、教職課程委員会で確認を行っている。留學しても教員免許を取得できるように通年科目を半期化するなどの見直しを行った。履修・登録アンケートや自己点検・評価の結果等を踏まえ、引き続き見直しを行っていく。 | B |

※自己評価の基準 : A: 成果がある B: 概ね達成している C: 取組みが不十分又は未実施

| No. | 大項目 | レベル | 中項目 | 観点 | 実施状況及び評価 | 評価 | 根拠資料 |
|-----|--------------|-------------|------------------------------------|---|---|----|---|
| 10 | | 授業科目 | 個々の授業科目の到達目標の設定状況 | 法令、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画、学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムへの対応が図られているか | 概ね適切である。 シラバスを変更する際は、一般的包括的科目として適切な内容であるか、教職課程コアカリキュラムに対応しているか確認している。 | A | ・シラバス ・コアカリキュラム対応表 |
| 11 | | 授業科目 | シラバスの作成状況 | 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と授業科目との関係、授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等が明確に記載されているか | 全学的なシラバス作成要領を定め、要領に従って各教員が作成している。記載内容は 各専攻及び全学教育センターにおいてチェックしている。 | A | ・シラバス ・シラバス作成要領 |
| 12 | | 授業科目 | アクティブ・ラーニングやICTの活用など新たな手法の導入状況 | 授業科目の到達目標に応じ、少人数のアクティブ・ラーニングやICTを活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか | 授業科目の到達目標に応じ、演習やグループワーク、ディスカッション、発表、フィールドワークなどを積極的に取り入れている。また、オンラインやハイブリッド授業の提供をはじめ、ICTを活用した多様な授業方法を設けており、アクティブラーニングやICT活用など新たな手法を取り入れた授業を行っている。教育実習事前指導や教職実践演習においてはTeamsを積極的に活用している。 | A | ・シラバス |
| 13 | | 授業科目 | 個々の授業科目の見直しの状況 | 学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか | 授業評価アンケート等の結果を踏まえ、随時授業の改善を行っている。 | A | ・授業評価アンケートフィードバック報告書 |
| 14 | | 授業科目 | 教職実践演習及び教育実習等の実施状況 | 教職課程において特に重要な役割を果たす教職実践演習、教育実習は、事前指導・事後指導を含め、大学の主体的な関与の下で適切に行われているか | 沖縄県内の教育実習は各専攻の担当教員が研究授業の際に訪問し指導を行っている（2025年度のべ28名）。教育実習の評価については大学の評価規準に基づき教育実習部会として成績を承認しており、大学の関与の下で適切に行っている。「教職実践演習」は、外部講師の協力も得ながら専任教員が担当している。 | A | ・研究授業訪問教員一覧 ・教育実習部会次第 ・シラバス ・教職課程年報（第二部 教職課程教育実践報告） |
| 15 | | 大学全体 | 成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況 | 成績評価基準に基づく評語と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係等が明らかにされているか | 各学部履修規程において成績評価の基準を定めている。また、沖縄県立芸術大学における成績評価に関するガイドラインを定めている。これらを大学ウェブページで公表するとともに、学生に対して「履修案内」等で周知している。 | A | ・沖縄県立芸術大学美術学部履修規程 ・沖縄県立芸術大学音楽学部履修規程 ・成績評価に関するガイドライン ・美術工芸学部履修案内 ・音楽学部履修案内 |
| 16 | | 学科等 | 成績評価に関する共通理解の構築 | 同一名称の授業科目を複数の教員が分担して開講している場合に成績評価の平準化を図ることができているか | 「総合的な学習の時間の指導法」ではシラバスの記載内容や評価基準を統一して、成績評価の平準化を図っている。 実技科目については共通のルーブリックを使用し、客観的な成績評価に努めている。 | A | ・シラバス ・成績評価に関するガイドライン ・ルーブリック？ |
| 17 | ③学修成果の把握・可視化 | 学科等 | 教員の養成の目標の達成状況を明らかにするための情報の設定及び達成状況 | 教員の養成の目標の達成状況を明らかにするための情報が適切に設定されており、それがどの程度達成されているか、教職実践演習に向けた「履修カルテ」を適切に活用できているか | 「教員免許状取得者数」「教員採用試験合格者数」「臨時的任用職員・非常勤講師採用人数」を指標として設定し、教職課程年報において数値を公表するほか、経年変化の分析を行っている。教育実習事前指導と教職実践演習において、履修カルテを記入し、必要な資質能力についての自己評価を行っている。 | A | ・ 教職課程年報（第一部 教職課程の報告） ・ 履修カルテ |
| 18 | | 授業科目 | 成績評価の状況 | 各授業科目の到達目標に照らしてできるだけ定量的又は定性的に達成水準を明らかにし、厳格に点数・評語に反映することができているか、公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか | 定期試験、小テスト、レポート、論文、作品、実技・演舞、学修記録及び発表・報告等、当該授業科目に適切な方法を選択又は組み合わせ、あらかじめシラバスに明示した評価基準により定量的・定性的に達成水準を明らかにしている。また「教育実習」については別途評価規準と評価方法を定め、教育実習部会において成績評価を行っている。 | A | ・シラバス ・シラバス作成要領 ・成績評価に関するガイドライン ・教育実習成績評価票 ・教育実習部会次第 |
| 19 | | 大学全体 学科等 | 教員の配置の状況 | 教職課程認定基準で定められた必要専任教員数を充足しているか | 教科及び教科の指導法に関する科目、教育の基礎的理解に関する科目等とともに必要専任教員数を充足している。 | A | ・ 教員養成に係る教員の数 |

※自己評価の基準 : A:成果がある B:概ね達成している C:取組みが不十分又は未実施

| No. | 大項目 | レベル | 中項目 | 観点 | 実施状況及び評価 | 評価 | 根拠資料 |
|-----|-------------------------|-------------|--|---|--|----|---|
| 20 | ④教職員組織 | 大学全体 学科等 | 教員の業績等 | 担当授業科目に関する研究実績の状況、担当教員の学校現場等での実務経験の状況 | 毎年2月から4月にかけて、担当授業科目に関する研究業績を提出し、 各専攻で点検している 。十分な研究実績及び実務経験を有すると考えられる。 | A | ・各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること ・教職課程「各教員が有する業績」点検計画 |
| 21 | | 大学全体 学科等 | 職員の配置状況 | 教職課程を適切に実施するため、事務組織を設け、必要な職員数を配置できているか | 教職課程を適切に実施するため、教務学生課の職員を配置している。ただし、教職課程以外の業務も兼務しているため、業務過多となっている。今後は専従職員の配置について検討する。 | B | ・事務分担表 |
| 22 | | 大学全体 学科等 | F D・S Dの実施状況 | いわゆる教科専門の授業科目を担当する教員や実務家教員も含め、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画への理解をはじめ教職課程を担う教員として望ましい資質・能力を身に付けさせるためのF D・S Dが確実に実施されているか、適切な内容が実施できているか、実際に参加が確保できているか | 大学として行うFD活動のほか、 教職課程としてのFD研修会を必要に応じて開催している 。教職課程担当教員と事務職員は学外のFD・SD研修に積極的に参加することで知識の拡充を図っている。 | B | ・「授業公開及び参観」実施要項 ・「授業公開及び参観」実施状況報告 ・教職課程年報（第五部 教職課程の質向上に関する取組） |
| 23 | | 授業科目 | 授業評価アンケートの実施状況 | 個々の授業科目の見直しに繋がるF Dの機会を活用できるように、効果的な授業評価アンケートの作成・実施が行えているか | 全学的に授業評価アンケートを実施している。また、アンケート結果についてフィードバック報告書を作成し、個々の授業科目の見直しにつなげている。 | A | ・授業評価アンケート実施要領 ・授業評価アンケート総括表 ・授業評価アンケート結果に係るフィードバック報告書 |
| 24 | ⑤情報公表 | 大学全体 | 学校教育法施行規則第172条の2のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報公表の状況 | 法令に定められた情報公表が学外者にもわかりやすく適切に行えているか | 教職課程情報の公表をHPにより適切に公表している。 | A | ・教育研究活動等の情報の公表 ・本学の教員の養成の状況について |
| 25 | | 大学全体 | 学修成果に関する情報公表の状況 | 大学が必要な資質・能力を備えた学生を育成できているかどうかを、エビデンスとともに説明できているか | 実習校からの教育実習の成績評価は総じて高く、教員採用試験に現役合格する学生もコンスタントに出てきている。卒業時アンケートでは、必要な資質・能力を身に付けていることが確認できる。また、それらの情報をHPや大学データ集の中で公表している。 | A | ・教職課程年報（第一部 教職課程の報告） ・卒業時アンケート結果 |
| 26 | | 大学全体 | 教職課程の自己点検・評価に関する情報公表の状況 | 根拠となる資料やデータ等を示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の評価書を公表することができているか | 令和8年度中に公表する 。根拠資料に大学ウェブページ等のリンクを貼るなどの工夫をしながら、分かりやすい評価報告書の作成・公表に努める。 | C | |
| 27 | | 大学全体 学科等 | 教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況 | 教職課程に関する積極的な情報提供の実施ができているか、 教員の養成の目標に照らして適切に学生を受け入れているか | 新入生全員に「教職課程のしおり」を配付するほか、新入生ガイダンスを実施して必要な情報提供を行っている。事務局前、全学教育センター事務室前、教員研究室前などに掲示板を設置し、随時情報提供を行っている。造形芸術研究科入試説明会では、教職課程の説明動画を視聴できるようにしている。 | A | ・教職課程のしおり ・新入生オリエンテーション日程表 |
| 28 | ⑥教職指導 (学生の受け入れ・学生支援) | 大学全体 学科等 | 学生に対する履修指導の実施状況 | 必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、学生に教職課程の履修に当たって学修意欲を喚起するような適切な履修指導が行えているか、 「履修カルテ」を適切に活用できているか | 免許取得や教員採用までの流れを示した「教職課程のしおり」を配布するとともに、事務局及び教職課程専任教員が日常的に履修相談にあっている。各学期の履修登録期間に実施する履修相談では、教職課程のペースを設けて個別の相談に応じている。教育実習履修予定者に対して教職課程専任教員2名との面談を必須としている。教育実習事前指導と教職実践演習において、履修カルテを記入し、教職課程の振り返りを実施してい | A | ・教職課程のしおり ・履修科目登録手続きについて（公示） ・教育実習履修登録申請書 ・教育実習事前指導日程表 ・履修カルテ |

※自己評価の基準 : A:成果がある B:概ね達成している C:取組みが不十分又は未実施

| No. | 大項目 | レベル | 中項目 | 観点 | 実施状況及び評価 | 評価 | 根拠資料 |
|-----|------------|-------------|------------------------|--|--|----|---|
| 29 | | 大学全体 学科等 | 学生に対する進路指導の実施状況 | 学生に教職への入職に関する情報を適切に提供するなど、学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか | 各自治体の教員採用試験説明会を学内やオンラインで実施している。また、12月の教員免許一括申請説明会の際に、臨時的任用教員や非常勤講師の登録方法についてもあわせて説明を行っている。教員採用試験の大学推薦に関しては、学生への周知、学内選考、推薦書の作成、受験後の報告などのフローを明確にした。教員採用試験を受験する学生を対象にした勉強会を教職課程専任教員とキャリアアドバイザーとで週1回実施している。今後は教員採用試験に合格した学生による内定者を実施座談会を行う予定。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県公立学校教員候補者選考試験制度説明会開催要項 ・ 教育職員免許状一括申請説明会次第 ・ 教員採用試験の大学推薦について ・ 教員採用試験勉強会実施状況 |
| 30 | | 大学全体 | 教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況 | 教員の採用を担う教育委員会や各学校法人と適切に連携・交流を図り、地域の教育課題や教員育成指標を踏まえた教育課程の充実や、学生への指導の充実につなげることができているか | 沖縄県教育庁学校人事課を事務局とし、沖縄県内の大学・短大、那覇市教育研究所、沖縄県立総合教育センター、高等学校校長協会、特別支援学校校長会、中学校校長会、小学校校長会、公立幼稚園こども園町会からなる連絡協議会を通じて、養成・採用等に関する意向や方針を共有し、教育課程や学生指導の充実につなげている。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県公立学校教員育成協議会実施要項 |
| 31 | ⑦関係機関等との連携 | 大学全体 | 教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況 | 教育実習を実施する学校と適切に連携・協力を図り、実習の適切な実施につなげることができているか 学校体験活動や学習指導員としての活動など学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できているか | 教育実習の巡回指導（2025年度のべ28人）において、学生の実習状況等に関して意見交換等を行うことにより連携・協力を図り、適切な実施につなげている。合理的配慮が必要な学生の教育実習では、事前に実習校と調整しきめ細かなサポートを行っている。教職実践演習では、大平特別支援学校におけるフィールドワークを実施している。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業訪問教員一覧 ・ 教職実践演習フィールドワークのしおり |
| 32 | | 大学全体 | 学外の多様な人材の活用状況 | 学外の諸機関との連携の下、教育課程を充実するために学外の多様な人材を実務経験のある教員又はゲストスピーカー等として活用することができているか | 教育の基礎的理解に関する科目等のうち、教職論、特別支援教育、教科教育法は実務経験のある非常勤講師が担当している。教育実習事前指導及び教職実践演習においては、県立総合教育センター指導主事、教職経験者、現役教員の卒業生等を招聘し、講義内容の臨床化を図っている。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ シラバス ・ 教職課程年報（第二部 教職課程教育実践報告） |